

令和5年度「知事と市町長の円卓対話」（桑名市）概要

- 1 対話市町名 桑名市（桑名市長 ^{いとう}伊藤 ^{なるたか}徳宇）
- 2 対話日時 令和5年7月18日（火）9時00分～9時30分
- 3 対話場所 ホテル花水木（桑名市長島町浦安 333 番地）
- 4 視察場所 ナガシマリゾート
- 5 対話項目
 - （1）不適切保育の再発防止に向けて
 - （2）企業誘致に向けた高速道路網の活用について
 - （3）北勢地域の強みを活かした観光について

6 対話概要

対話項目（1）不適切保育の再発防止に向けて

（市長）

長寿認定こども園で発生した不適切保育の再発防止に向けての取組について、共有させていただきます。事案発生後、桑名市が立ち入り調査を行い、現在は県とともに特別監査を実施しています。また、桑名市では、第三者による調査委員会を設置して、議論を進めているところですが、今まさに調査している最中で、結論が出るのはおそらく8月に入ってから、という状況です。どのような結果になるかはわかりませんが、二度とこのようなことが桑名市で、また三重県で起こらないよう、しっかりと連携・共有を図らせていただきたいと思います。

実際に桑名市でどのようなことをしているかという点、まず1つは心のケアが必要な方たちに対して、県の臨床心理士会と一緒に、18名でチーム体制を作り、長寿認定こども園のお子さん、保護者、保育士へのケアに入らせていただいています。

また、発生当初より、桑名市から保育士を6名派遣して、保育の現場をしっかりと成り立つようにしてきましたが、法人をマネジメントする人はいるものの、保育現場をマネジメントできる人がいなかったのではないかと、ということが見えてきております。桑名市からは、今も桑名市の公立の保育所の所長経験者を週5日間、現場に派遣していますが、そういう意味では、しっかりとマネジメントできる人が必要ではないかということが少し見えてきているという感覚があります。

もう一つは、転園希望の方たちに対して、特別に転園を実施しているところであり、6月、7月で転園を希望される方が19名、8月の転園希望が15名出てきている状況です。全体で140名ほどの規模の園であるため、これが多いのか少ないのか

はわかりませんが、希望があればしっかりと対応させていただいているところです。

色々に対応していかなくてはいけないことが今後も出てくるかと思います。県と連携し、二度とこのようなことが起こらないよう、しっかり取り組んでいきたいと思っていますので、ぜひ知事からもこの対応についての思いをお聞かせいただければと思います。

(知事)

この不適切保育というのは、本当に聞けば聞くほどひどい話です。このようなことが保育の現場で、それも保育士によって行われるというのは、ありえない話です。ただ、ありえないことが起こるので、それをどうやって防止するか、これを考えるときに一番大事なのは、子どもの気持ちにならなければいけないということだと思います。

子どもたちは、長時間、通常ではないようなことを強いられている、あるいは、マスコミからの情報によると、子どもが、自分が悪かったからそういうことになったと言っている、という話も聞きます。子どもにそのようなことを強いてはいけないということや、保育士がやったことは間違いだということ、我々大人が正していかないといけないと思います。

教育の現場や保育の現場は、ある意味市民性、社会性というのがまだまだ入っていないという気がします。昔は会社内でのハラスメントが結構ありましたが、最近になってハラスメント防止法ができ、現場も守るべき法律を守っていくということで、会社の中のハラスメントは随分変わってきたと思います。ところが、教育現場あるいは保育の現場では、依然として子どもたちの権利を侵害することが容易に起きてしまうため、それをどうやって変えていくかについては、きちんと議論していく必要があると思います。

マネジメントが十分にできていない現場での保育というのは、本当に大変なことになると思います。今回の事案を受けて、どのように適切なマネジメントをしていくのか、それを考えていく必要があると思っています。

現在、特別監査の途中ですが、桑名市から報告いただいた6つの項目を含め、内容をしっかり確認させていただきます。なぜそのようなことが起こったのか、そして、子どもたちがどのように考えているのか、ここが一番大きなところだと思います。

今年は、県の子ども条例について、見直しに向けた検討を進めていく必要があると考えていますが、そこでの一番のキーワードは、子どもの意見を聞くことや、子どもがちゃんと守られているか、一個の人格として守られているかを確立していくことではないかと思っています。今後、特別監査の結果を含め、議論をしながら、一番いい形で整えていきたいと思っていますので、ご協力をよろしくお願いします。

(市長)

保育現場としての一般論の部分と、今回の長寿認定こども園で発生したような特殊な部分と、両方議論していかなければならないと思っています。今、知事がおっしゃっていただいたように、私はある意味でこれはチャンスではないかと思っています。

現在、桑名市では、長寿認定こども園の保育現場の立て直しを一生懸命進めています。併せて、桑名市としては、知事がおっしゃるような、このようなことは絶対にあってはならないということを、私立の保育連盟と一緒に、改めてしっかりと教育し直していこうということに取り組んでいます。そうした意味では、良い機会になったのではないかと思っています。

まずは、今回の事案で心を痛めたお子さんたちのケアを最優先にしながら、二度とこの桑名で起こらないよう、ぜひ知事と連携して進めていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

(知事)

多くの保育士さんは、子どものために、それから保護者のことを考えて日々取り組まれていると思いますが、どこかでそれが変わって、このようなことが起こってしまっていると認識しています。その原因を究明して、そのようなことがないようにしていかなければなりません。

どのような方法が良いかというのはよく考えて、これを一つの事例、特殊なケースとはせずに、他にも起こりうるかもしれないという意識を持って対応策を考えていく必要があると思います。

対話項目（２）企業誘致に向けた高速道路網の活用について

(市長)

二つ目は、企業誘致に向けた高速道路網の活用についてです。知事も5月にご臨席いただきましたが、桑名の多度南部エリアのUSJCで、デンソーと協働でパワー半導体が初めてできて出荷をしていただいたということで、ご一緒いただきましてどうもありがとうございました。

台湾の半導体の所長さんもわざわざご一緒いただいて、このエリアのポテンシャルについてもご挨拶でもお話いただきましたし、これから多度南部エリア、半導体のみならずさまざまな企業が集まってきていますので可能性があるなと思っています。

先月は、カインズと伊藤忠商事に新しい物流倉庫を作っていただきまして、カイ

ンズの西の拠点、それからカインズとして持っている最大の倉庫を作っただき、稼働し始めました。カインズの15万点あるプライベートブランドのうち13万点はここで保管をするということで、ここから西に攻め入りたいということをおっしゃっていましたが、さまざまな業界の方たちがやはりこの多度南部エリアに注目いただいています。その中で、県にも大変ご尽力をいただいて、県道四日市多度線と県道御衣野下野代線という2路線を同時に、事業の実施をいただいております、大変感謝をしております。

とはいえなかなか、そこだけではうまくできていないのではないかというお声も企業側からもいただいております、また近隣の住民の皆さんからも、各所で渋滞による騒音などでお困りになっているというようなお声もいただいております。その中で、桑名市としては、東名阪自動車道の大山田PAをスマートIC化し、そこから多度南部エリアにダイレクトにつなぐ、産業道路としての桑名北部東員線という道路を通すことで、企業側からも喜んでいただき、また、住民の皆さんにも迷惑をかけないような道路整備ができないかなということを考えています。国に対しては、このスマートICの要望活動を県とも一緒にさせていただいております、この夏が大事なタイミングだと思い進めております。それと同時に北部東員線の整備も重要だということで、桑名市として、6月の議会で認めていただき、道路整備の特別基金を10億円積ませていただいて、整備に向けて着々と準備をさせていただいている。

企業の方に来ていただくためには、インフラを整備することが、企業側にとっても、また、現在お住まいの皆さんにとっても非常に重要であると考えており、その中でぜひとも県と国と一緒にあって、一日も早いスマートICの整備をしていきたいと考えておりますので、ぜひ知事の熱意をお聞かせいただければと思っております。

(知事)

大山田のスマートICは以前から国交省道路局にも私どものほうからもよろしくお願ひしたいという話をさせていただいております。道路局が心配しているのは、桑名北部東員線ができたからおそらく問題ないが、その間に大山田の団地の中を通過しなければいけないので、住民の皆さんは大丈夫かということをお心配していて、もう一つ踏み切れていないという印象を受けるのですが、そのあたりどのような感じでしょうか。

(市長)

スマートICのエリアを区画整理事業で進めていくということで、スマートICの整備についての住民への説明会をすでに6回開催し、延べ133名の地元住民の方が参加いただいております、この事業に対しての反対意見は全くないところです。そし

て、この土曜日（7月15日）に改めてスマートICと北部東員線の説明会をさせていただいたが、そこでも全く反対の声はありませんでした。なぜこうなっているかと申し上げますと、私が3年前の選挙の公約で掲げた際に、まずスマートICを作るということを申し上げています。その際に大山田の中の道を走る、となっているが、この陽だまりの丘と大山田の間を走っている道路というのが、2車線2車線の4車線の道路で、住民の方から見るとそれによって道路が渡りにくくなるというようなことはなく、そもそも上に歩道橋がかかっているなど、生活道路とそこは分断された道路だという認識があるということです。土曜日（7月15日）の説明会でもしっかりそこは説明させていただいております。また、連合自治会という地域の住民の皆さんの代表からも、国に要望を出させていただいており、この結果を受けて、（7月）27日に改めて道路局長にも要望をさせていただくというところまで今進んでいます。

（知事）

道路局は、地元のことがわからないところがある。彼らもICを作ってしまうと責任が生じるということもあるので、心配する気持ちはわからなくもないですが、桑名で地元の人と話していただいているので、それを伝えたらまた局面が変わってくると思いますし、我々からも言わせていただこうと思っています。桑名北部東員線にも取り組むということも決めていただいておりますし、陽だまりの丘を通っていく道についても、住民の方から全く反対されていないということも話をさせていただいたら、このスマートICについては弾みがつくと思っております。県も引き続き道路局に話をしていきます。

御衣野下野代線と四日市多度線についても事業化しているので、お金をつける用意もあります。また、用地買収は、桑名市さんから桑名建設事務所に3人出向していただいております。本当にありがたく思っています。（用地買収は）地元の人をお願いをしないとなかなか難しいところがあり、機微に触れる部分もあるため、その辺をうまく買収しながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

（市長）

スマートICは、県からの強力なプッシュがあれば進めていけると思っておりますので、ぜひそのお気持ちと一緒に進めていただければありがたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

対話項目（3）北勢地域の強みを活かした観光について

（市長）

観光についての発言をさせていただきます。このナガシマリゾートというのは、年間 1500 万人程、本当に多くの方にお越しいただける一大リゾート施設となっております。ここまで大きな素晴らしい施設を作っていただきました長島観光開発に大変敬意を表するところであります。このあと全景をご覧いただきたいと思いますが、長島観光開発の民間だけの力で整備したかということ、やはりそうではないと私は思っています。さまざまな方としっかりとコミュニケーションが取れて、しっかりとそれに合わせた整備を行政やさまざまな機関と話し合いをしながら、ここまで大きくなってきたと、私は思っています。例えば、長島温泉の駐車場は1万5000台で、これは日本における最大の駐車場です。なぜこのような大きな駐車場ができたのかというのは、やはり地元の皆様のご理解、そして、農業委員会のさまざまなご理解があって、初めてこういったことができるようになっていきます。このような調整をしっかりとしていかなければいけないということ。また、県道7号水郷公園線を単に整備しただけではなく、伊勢湾岸道の湾岸長島ICからのアクセスの面で、信号を使わずに駐車場まで行くことができるような道路のインフラ整備をしていただいたのは県です。また、安全な場所を作るためにしっかりと堤防を整備いただいたのも県や国です。今、災害時の避難路をどのように整備をするかということも、行政と長島観光が一緒になってさまざま進めているところです。そういった意味では、観光においても、北勢はええなということだけではもったいない。行政としてもやらなくてはいけないことがたくさんあり、特に民間としっかりとコミュニケーションを取りながら、この地域の観光の振興につなげてもらいたいと思っています。南勢にたくさんお客さんが行ってほしいと思いますし、例えばこの長島を拠点にして、南に行くようなツアーもできるのではないかと思います。それぞれ南勢北勢中勢、エリア特性があるが、北勢はやはり北勢に応じた観光振興について、どのようにお考えいただけるのかをお伺いしたい。

もう一つは、木曾岬干拓です。このナガシマリゾートの川の対岸に大きく300haほど、現在も更地で未整備のまま、県有地として大変大きなスペースがあります。このようなスペースは日本中探してもおそらくなく、空港に近く、ターミナル駅から近い、高速道路のアクセスがある、このような素晴らしい場所はおそらく日本にはほとんどない場所だと思っています。ここをどのような形で活用していくのかというのは、三重県のみならず、中部全体がどうなっていくのか、ということに繋がっていくのではないのかなと感じています。

そのような中で、先日地元の若手経済界のメンバーたちが、新しく統合型リゾー

トについての勉強会をスタートしています。私たちもそこにも参加させていただいていますが、やはり地域の財界の人たちは、人口減少への危機感や、この地域はどうなっていくのか、日本はどうなっていくのかという危機感をすごく感じられている中で、起爆剤になるような取り組みを何とかできないだろうか、というような思いでそういった勉強会をされたとうかがっております。桑名市としては、三重県に対して、いろんな可能性調査をしていただきたいというようなことをずっと要望しているが、なかなかそのあたりが響いていただけない状況です。まさに民間、地元からの声が上がってきている中で、調査しないというのはやはり機会損失に繋がっているのではないかと。将来の三重県のため、中部のために、ぜひ一度調査をいただきたいと思っています。まず知事としても、このような他地域の声や、木曾岬干拓のエリアの活用をどのように考えておられるのかということ、ぜひお聞かせいただければと思います。

(知事)

日本で3番目の集客力を誇る遊園地ということで、三重県にそのような施設があることが本当に誇らしい気持ちです。最近アウトレットが近くにでき、やはり多くのお客さんが見えになっており、本当に長島観光さんには感謝をしているところです。大事なことは地元の理解ということ、それから行政の協力ということもあると思います。これからも盛り上げていかなければいけないと思っています。

伊勢市とか志摩市が単独でやっていたが、三重県として東京に観光の宣伝をするというのは今までしていなかったもので、去年、初めてやらせていただきました。新宿や東京駅で、デジタルサイネージを打ち出して、その中になばなの里も入れさせていただいて、宣伝をさせていただいたところです。

北勢の産業においては、名古屋と大阪に挟まれた非常にいい場所ですが、観光は先ほど申し上げた通りまだまだです。観光施設というのはいいところがあるが、南のように巡っていくという感じが、南もまだまだ足りないのですが、回廊の意識、回遊の意識というのは作っていかなければならないと思っています。これから観光部とも話をしていこうと思っていますが、南のほうはスピリチュアリティ、精神性が非常にあるところです。祈りの回廊のような観光地周遊ができるのではないかと考えています。北は桑名も、七里の渡しや、四日市に宿場町、亀山にも宿場町がありますが、そういった歴史の回廊のようなものなの、リゾート地と一緒にできるのではないかと。例えば長島温泉、鈴鹿サーキットもあります。そのような回遊を考えていかなければいけないと思っています。今までそのような意識があまりなかったのではないかと。そういう意味では、例えば長島観光開発の力をお借りして、色々な観光客が来ていたが、行政として何をやってきたのかということ、これから考えていかなければならない。そういった意味では、観光はまだまだ。県でやること

というのは、例えば観光に関して、観光地を結びつけるようなことをやっていかなければいけないと思っています。

先ほど産業の話が出ましたが、5月にUMCのワン社長がおいでになられました。ワン社長とは今年の1月に台湾に行ったときに親しくお話をさせていただいて、トップセールスもしてきました。握手もさせていただいて、そういったことが大事だと思います。それでワン社長と桑名多度でお会いした時にもこやかに話ができましたので、やっぱり知事のトップセールスというのは本当に大事だと思います。これからは産業も、それから観光も、やっていきたいと思っています。

一番大事なのは、地元のご理解なので、サイネージでもそうですが、どんなものを出しましょうか、と地元の方々に諮らせていただいて、こういった映像をぜひ使ってほしい、というので使わせていただくこともあると思います。

I Rにつきましては、何度も会見で聞かれます。今、桑名市で考えておられるのは、木曾岬干拓の桑名のところに作られるという感じですか。

いずれにしても、桑名の木曾岬干拓に作られる、あるいは桑名市内のどこかで作られるか、山のほうも災害が少ないという意味ではあるのかもしれないですが、その時考えていかなければいけないのは、やはり地元の理解だと思います。私も一年間、専属ではないですが、国土交通省の総合政策の時に、I Rの担当もやらせていただきました。それで議論になったのは、I Rの光と影についてです。プラス方向の話は産業振興という、人がたくさん来るので振興するというのもあるが、例えば、ギャンブル依存症の問題もあります。誰を入れるのか、例えばシンガポールですと、外貨を稼ぐために自国民は入れず外国の人だけを入れるということもやっています。韓国も1か所を除いては外国の人しか入れないということにしているが、その自国民の入れる一か所はかなり借金をする自国民が出てきており、持って入ったお金を全て使ってしまい、乗ってきた車まで売って帰るというような話も一時期ありました。なかなか難しい問題があるのと、加えて治安の問題もあります。治安が維持できるのかどうかということも考えないといけない。まずは、県で作るときも、政令指定都市で作るときも、地元の理解というのを一番第一に考えないといけない。住民の皆さんとよく話をさせていただいて、どうするかを決めていただく。勉強されるのはいいと思います。I Rに関して言うと、日本の各地、今、先行的にやっている事例があります。例えば大阪は、住民投票をやるかどうかということで、やらないと決め、議会でも紛糾していて住民投票すべきだという話と、しなくて良いと押し切るという考え方もあります。横浜ではI Rについて、選挙の争点になり、I R反対という方が主になられたという経緯もあります。和歌山では県議会でI Rについて資金的な部分が明確ではないというようなことが議論になり、和歌山県としてはI Rを見送りになった。長崎では、国には申請をされたのですが、国で計画自体がまだあいまいな部分があるということで保留になっている。各地でI Rに関して

は議論がなされ、サスペンデッド中になっているものもあるということです。

翻って三重県で、I Rが必要なかどうかというのを考えたときに、桑名地区ではI Rぜひ必要だという声もあるかもしれませんが、光と影の部分をよく考えていただいて、本当に必要なのか。例えば、大阪にまずI Rができたときに、外国からお客さんが来ます。大阪だけで終わらず、例えば関空に入って、あるいは伊丹に來られてそこからI Rに行き、陸路で名古屋に行く途中に桑名・四日市に寄っていただくというようなことも十分考えられる。デメリットをなるべく減らし、メリットだけどう享受するかということも考えていく必要がある。そのほうが賢いのではないかという気もしてしまっていて、デメリットを呼び込んで両方やるというのはあるとは思いますが、そうではないやり方を十分考えながらやっていくということも重要なと思います。

それから、I Rはご存じのとおり日本の資本だけでやれるということはありません。これは利益を外国にどんどん持っていかれるということもあるので、それでも地域の振興のために必要であれば、日本の国の富が、三重県の富が出ていく、ということをいかに防ぎながらI Rのメリットだけをどう享受するか、ということを考えていくのが賢いやり方かと思います。

(市長)

桑名市で言うと、おそらく3年程前の議論という印象なので少し残念です。知事が人口減少対策に力を入れるとおっしゃって、人口減少対策で一番大事なのは仕事を作ることです。その雇用はどこで作ることができるのかという時に、木曾岬干拓での統合型リゾートというのは多くの雇用を作ることができると思っており、人口減少対策に最も資する取り組みだと思っています。

プラスして、光と影の話はいつもされがちな議論ですが、光の話がいつもされず、税金がどこにどうやって入っていくのかという議論が常に置いてけぼりです。子育て支援の施策をするにせよ、何の施策をするにせよ、お金があるところとお金がないところでどんどん差ができてきているのが今の現状であって、桑名市は徹底した行財政改革をしてお金を作って、お金を回している。お金が稼げるならこんなことをしなくてもよかった。I Rの人口減少に対応できることに目を向けていただけないのが非常に残念です。税金の面、雇用の面、というプラスのことを考えずして、マイナス議論だけ、日本中がしているような感覚があり、非常に歯がゆく思っています。桑名市長としてではないのかもしれない、もしかしたら中部全体の観光、中部全体のこれからの将来のあり方、ポスト豊田の議論がなかなかされないことに非常にジレンマを感じています。そういう議論を知事にもしていただけたらと思って期待をしていたので非常に残念です。

(知事)

いずれにしても、地元の皆さんとの同意、ご理解が一番大事ではないかと思いません。

メリットというのは、先ほども申し上げましたように、地元の賑わいがある、あるいは、雇用も一部あるとは思いますが、北部は先ほども申し上げましたように、木曾岬干拓地についてもそうですし、まだまだ三重県は産業に関して、立地の機は多いと思います。木曾岬干拓地もこれから多くの産業が入ってくると思います。集客施設を作るかどうかというのは、産業面だけではなくて、災害面でも考えなければいけない。高潮の被害を受ける可能性もあるので、本当に大丈夫なのかということもあって、課題は山ほどあると思います。あると思いますけど、議論していただくのはいいと思います。横浜でも議論がされていますし、和歌山でもされています。そういった意味でも地元の方々と、桑名にIRを作ることについてどうなんだということを、虚心坦懐に、フラットに議論するというのは必要なことかなと思いますので、ぜひご議論いただいて、どんな風にやっていかれるか、デメリットをどうしたら消せるかというのはものすごく大きな話であります。人口減少対策は本当に大事です。そのたびにお金がかかる、おっしゃる通りでありまして、桑名市は非常にご努力をされていると思います。明石市にしてもそうですし、ほかの経費の分を削って子育てにお金を持って行って、それでほかのところから多くの人に移住してもらおうというやり方をとっておられます。そういう意味では、桑名市のやり方というのは敬意を払うところであります。子育てをしていくにあたり、治安も大事かなという風に思います。さまざまなところを議論していただきながら、IRだけが1つの解決の手法なのか、それをよく考えていただいたらいいかなと思っております。

(市長)

ぜひ治安の部分は、シンガポールなど、IRでうまくいっている事例もたくさんありますので、いいところ、そしてなかなかうまくいってないところ、そういったところもぜひとも調査していただいて、考えていただきたいというのが私たちの思いであります。